

1. 平成30年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 学習過程の充実と資質・能力の育成
 - ・単元など内容のまとまりを踏まえ、課題を追究したり解決したりする活動の充実
 - ・基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養
- 今回の改訂で新設・移行された事項の学習の充実
 - ・地理に関わる事象に関して、汎用的で実践的な地理的技能、自他の文化の尊重と国際協力、自然災害と防災、地域調査と地域展望についての学習の充実

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 学習課題を把握する場面で、**地理に関わる事象から学習課題を設定すること**は一定程度の生徒ができています。
- 把握した学習課題を追究する場面で、**調査活動や諸資料の活用など手段を考えて課題解決に必要な情報を収集すること**は一定程度の生徒ができています。収集した複数の情報を関連付けて資料から読み取ること、情報を課題解決に向けて分類・整理してまとめることや、**地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察すること**には一部課題があると考えられる。
- 追究したことをまとめて学習課題を解決する場面で、**社会における様々な場面で活用できる概念などに関わる知識を獲得すること**には一部課題があると考えられる。
- 「**地図や地理情報システムと現代世界**」において、**地理的技能を習得すること**は一定程度の生徒ができています。「**生活圏の調査と地域の展望**」において、**地域に見られる課題やその要因などを多面的・多角的に考察すること**には一部課題があると考えられる。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
 - ・収集した複数の情報を比較、関連付けたり、重ね合わせたりしながら、読み取ったり、分類・整理してまとめたりするなどの学習活動の充実
 - ・単元など内容のまとまりを踏まえ、地理的な見方・考え方を働かせる「主題」や「問い」を設定し、事象の規則性、傾向性などの概念を活用して多面的・多角的に考察する学習活動の充実
 - ・課題を追究したり解決したりする一連の学習過程を充実させ、概念などに関わる知識を獲得するように学習を設計することを重視
 - ・科目のまとめである「生活圏の調査と地域の展望」を見通して、GIS等の効果的な活用や諸課題の考察、構想を通して習得した各中項目の資質・能力を関連付けた年間指導計画の作成を重視

4. 調査問題例（ペーパーテスト調査）

「調査活動や諸資料の活用など手段を考えて課題解決に必要な情報を収集すること」の問題例（別紙1-1、別紙1-2参照）

- 汎用的で実践的な地理的技能を確実に習得することを重視して、手段を考えて課題解決に必要な社会的事象等に関する情報を収集する技能について、「知識・技能」を測る観点から出題した。
- 地域の課題を追究するために、「地理院地図」から必要な情報を適切に収集する問題を出題した。
【通過率 76.7%】

「地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察すること」の問題例（別紙2参照）

- 地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察することを重視して、「思考・判断・表現」を測る観点から出題した。
- 2枚の主題図から読み取った情報と人口・都市に関する知識を基に、A地域における人口減少の要因について多面的・多角的に考察する問題を出題した。
【通過率 49.3%】

「調査活動や諸資料の活用など手段を考えて課題解決に必要な情報を収集すること」の問題例

地理総合 A(1)「地図や地理情報システムと現代世界」

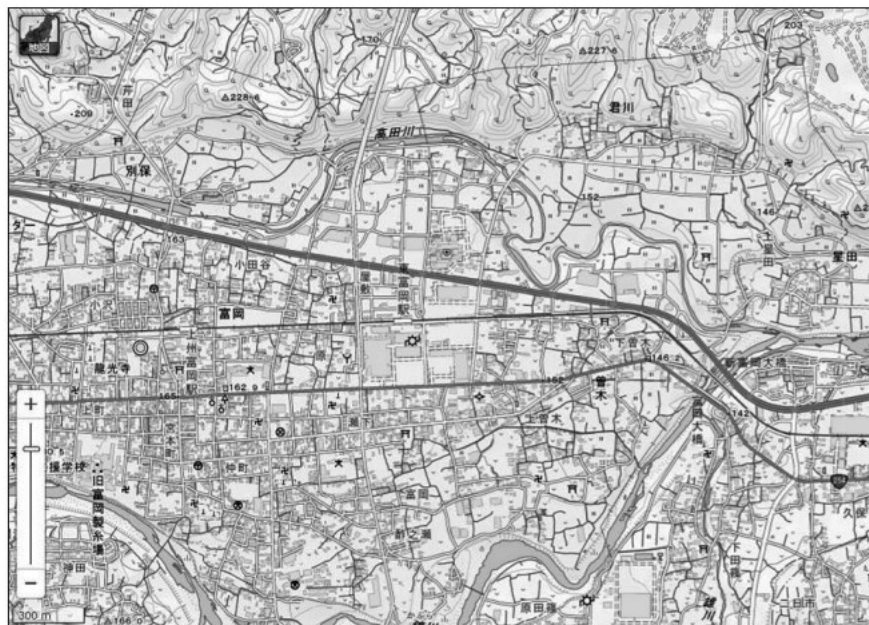
地域の課題を追究するために、様々な資料から必要な情報を選択して収集する問題

○地域の課題を追究するために、「地理院地図」から必要な情報を適切に収集する問題。

このような問題から、調査活動や諸資料の活用等手段を考えて課題解決に必要な情報を収集する力の育成の状況について測る。

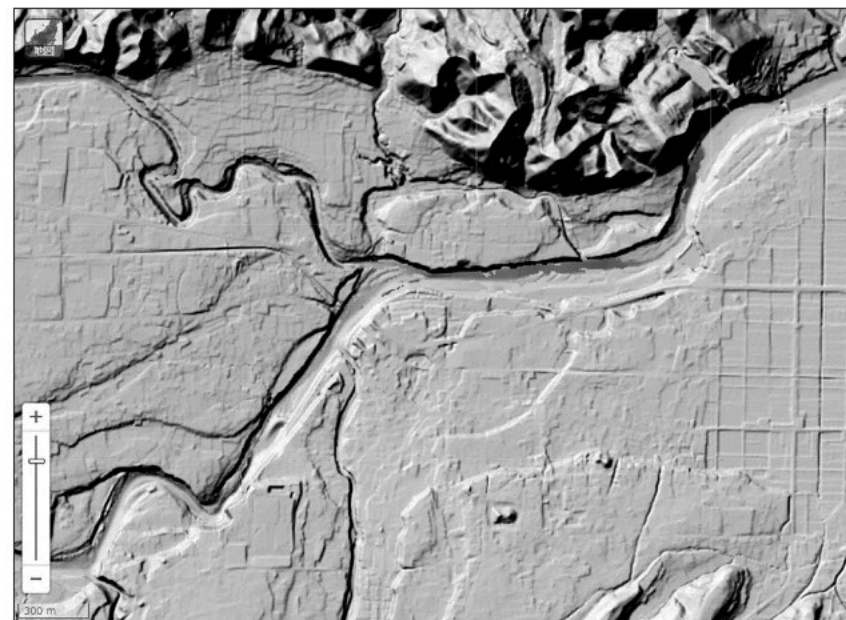
(3) 次の1から4は、地理院地図を使って表示できる様々な地図画面と、それぞれの地図画面から読み取れる内容についてまとめたものです。それぞれの地図画面から読み取れる内容として適切でないものを、1から4の中から1つ選びなさい。(3)

1



地図中の地図記号から、主要な幹線道路や鉄道が東西に伸びている様子や、建物が密集している範囲に、市役所など複数の公共施設があることが読み取れる。

2



地図の陰影から、河川に沿った段丘の様子や平野のわずかな高低差など、等高線だけでは分からない地形の起伏が読み取れる。

「調査活動や諸資料の活用など手段を考えて課題解決に必要な情報を収集すること」の問題例 (続き)

3

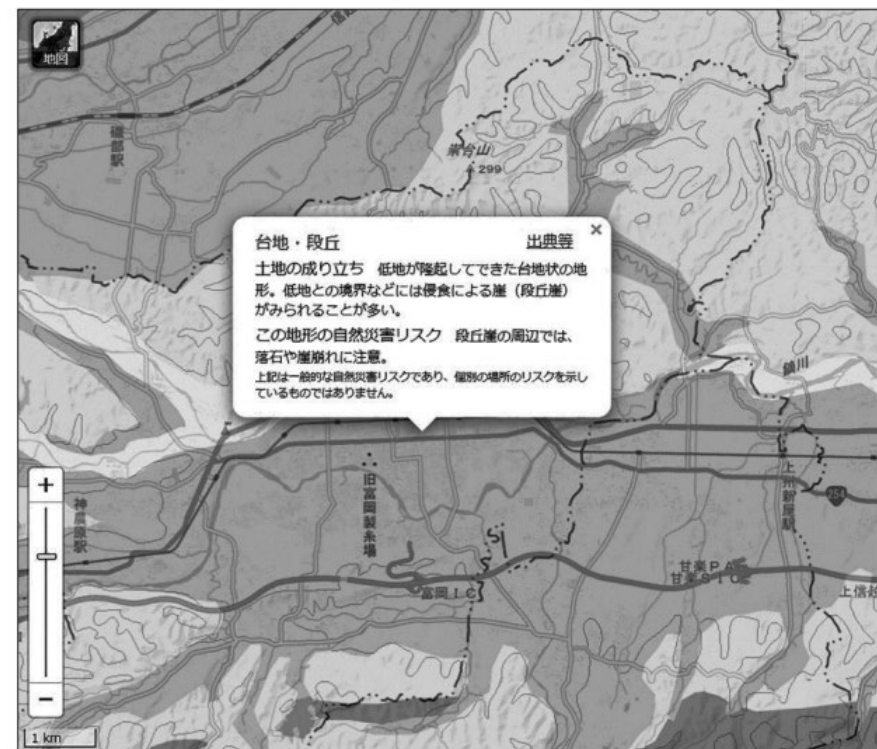


注)左は 1974 年～78 年の空中写真、右は 2004 年の空中写真。

左右に並んだ新旧の空中写真の比較から、空き家や空き店舗がどのように増加しているのかが読み取れる。

【通過率 76.7%】

4



「土地の成り立ち」や「この地形の自然災害リスク」から、この場所の地形の特徴や、この地形で一般的に想定される自然災害などが読み取れる。

(地理院地図による)

「地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察すること」の問題例

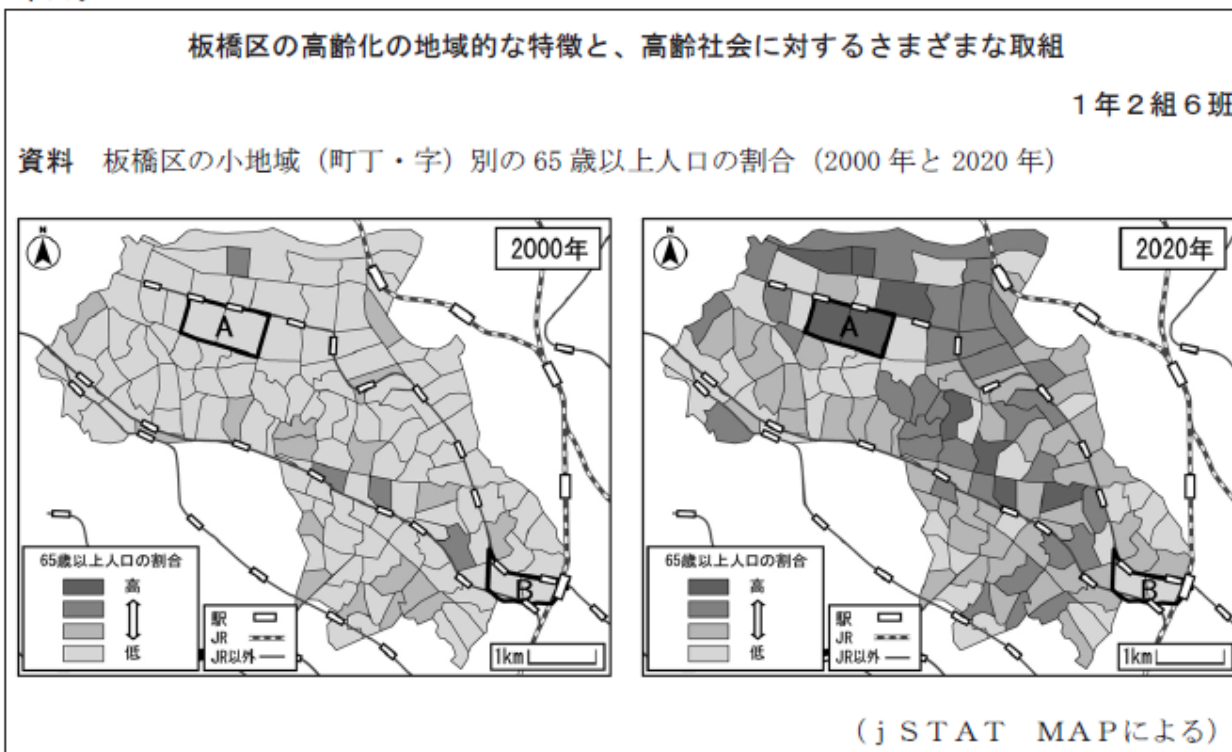
地理総合 C(2)「生活圏の調査と地域の展望」

生活圏における課題の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する問題

- 2枚の主題図から読み取った情報と人口・都市に関する知識を基に、A地域における人口減少の要因について多面的・多角的に考察する問題。
このような問題から、諸資料を基にして地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力の育成の状況について測る。

- (2) マイさんたちはさらに調査を進めたところ、板橋区は東京23区の中でも高齢化率が高いことを知り、これに関連する資料を手に入れました。資料から読み取ったり、推察したりした内容をまとめた次のポスターに関するあとの①と②の問題に答えなさい。

ポスター



資料から20年間で多くの小地域で高齢化が進んだことが読み取れます。その一方で、高齢化の進行具合には、地域差が見られます。なぜ明らかな地域差が見られるのか疑問に思い、高齢化が急激に進んだA地域とあまり進まなかったB地域について調べてみました。

A地域の特徴

A地域には、総戸数が1万を超える大規模な団地があります。この団地は、1960年代末から70年代始めの高度経済成長期に造成され、一斉にファミリー層(親と子供の世帯)住民が入居しました。そのため、人口の転入・転出を表す社会増減はプラスになりました。その後、2000年前後に団地住民の 、人口の社会増減がマイナスになり、人口が減少するようになりました。その結果、2020年までに急激に高齢化が進みました。

- ① ポスター中の に当てはまる語句として最も適切なものを、次の1から4の中から1つ選びなさい。(22)

- 1 親の世代を中心に転出が進むと
2 子供の世代が成長して転出すると
3 少子化が進んで子供の数が減ると
4 死亡率が出生率を上回ると

【通過率 49.3%】